

図1 認定看護師の教育・認定過程

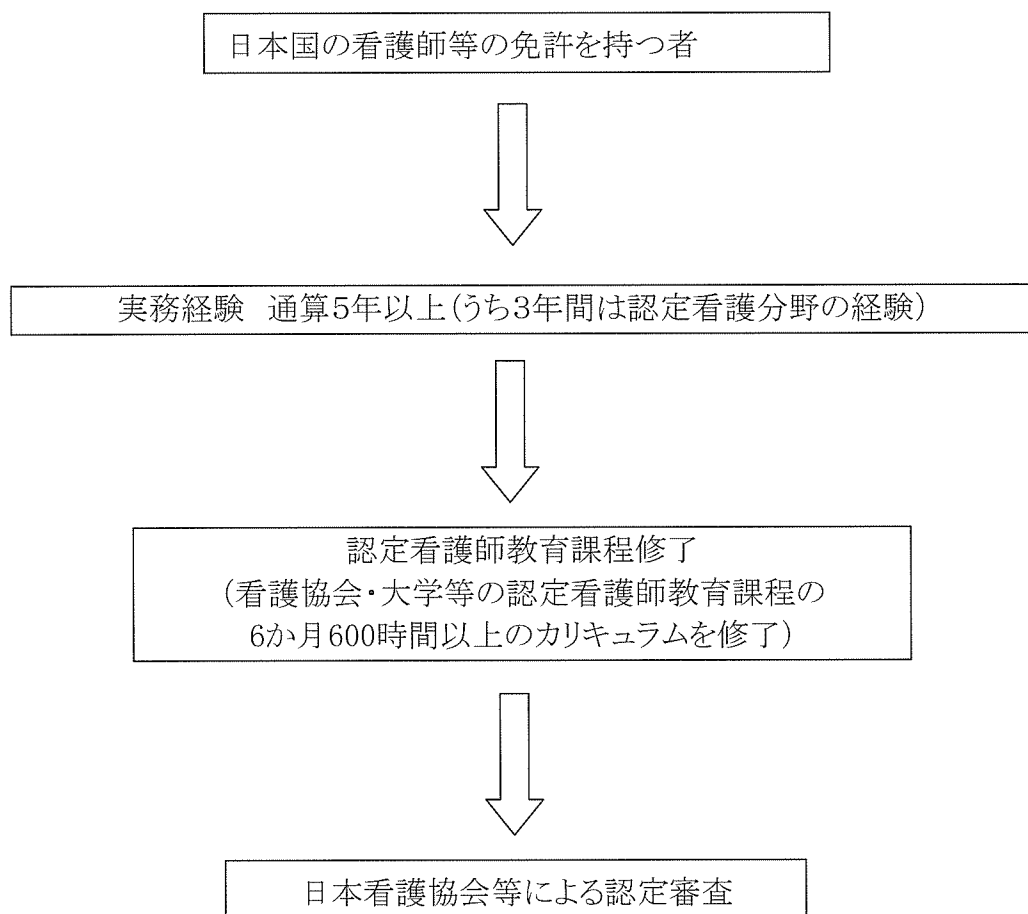


図2 専門看護師の教育・認定過程

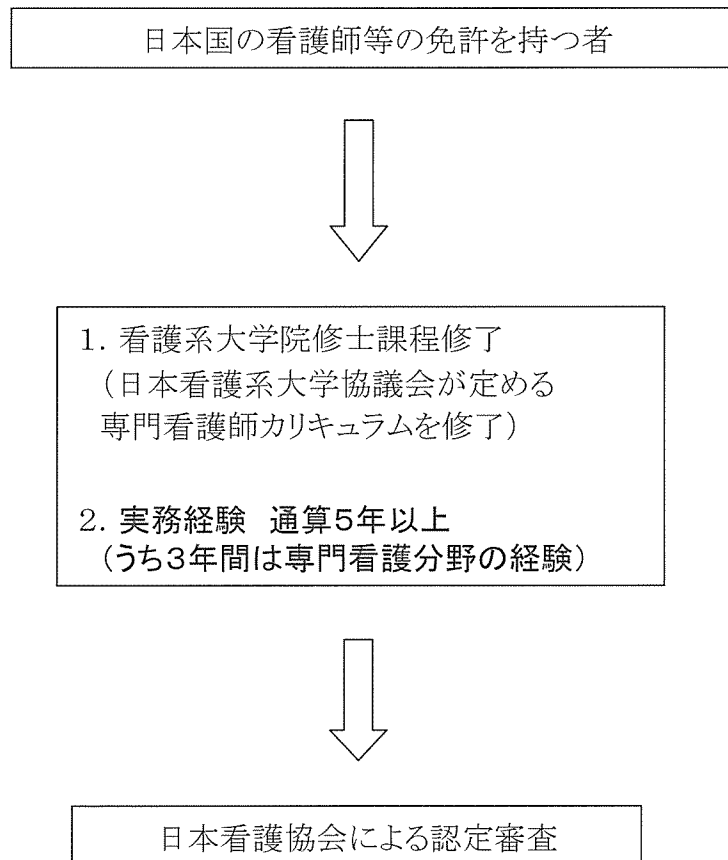


図3 EBM/Nに関する知識・スキルの達成度の自己評価

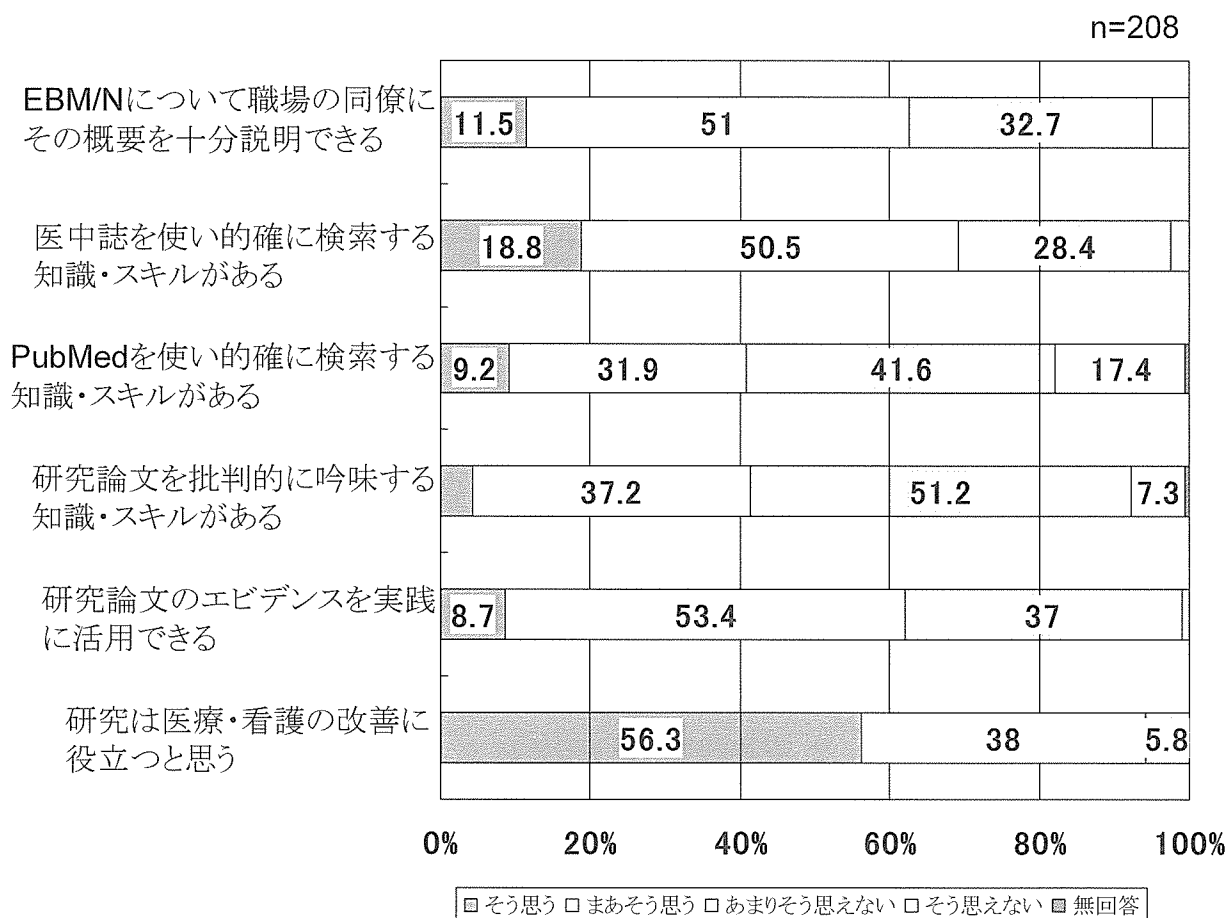
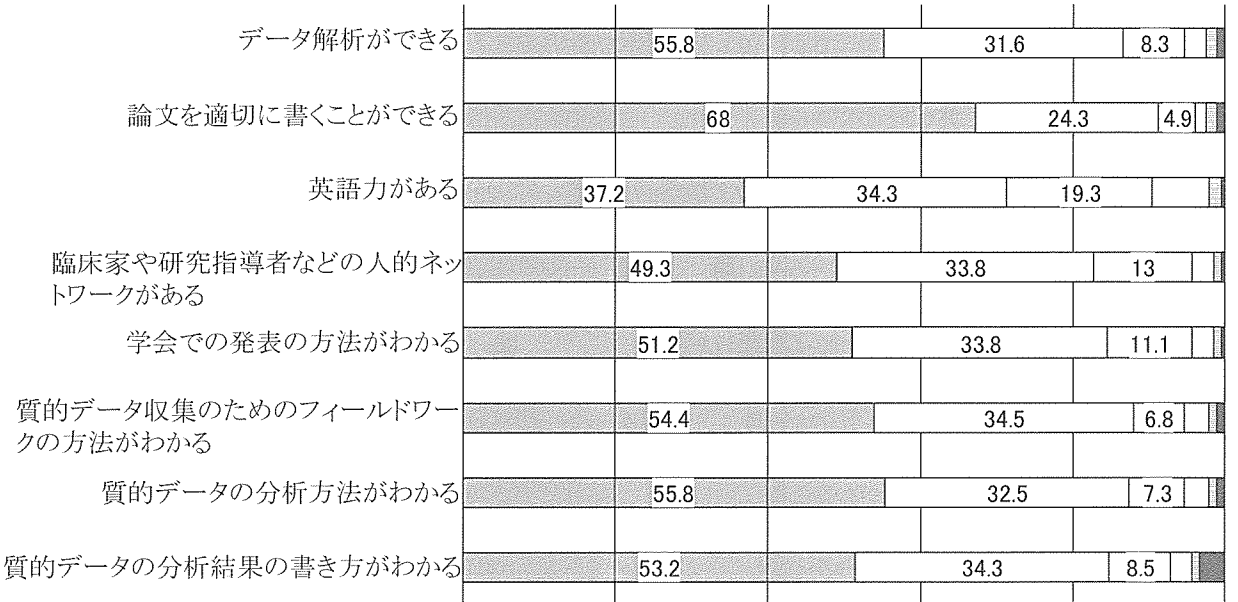
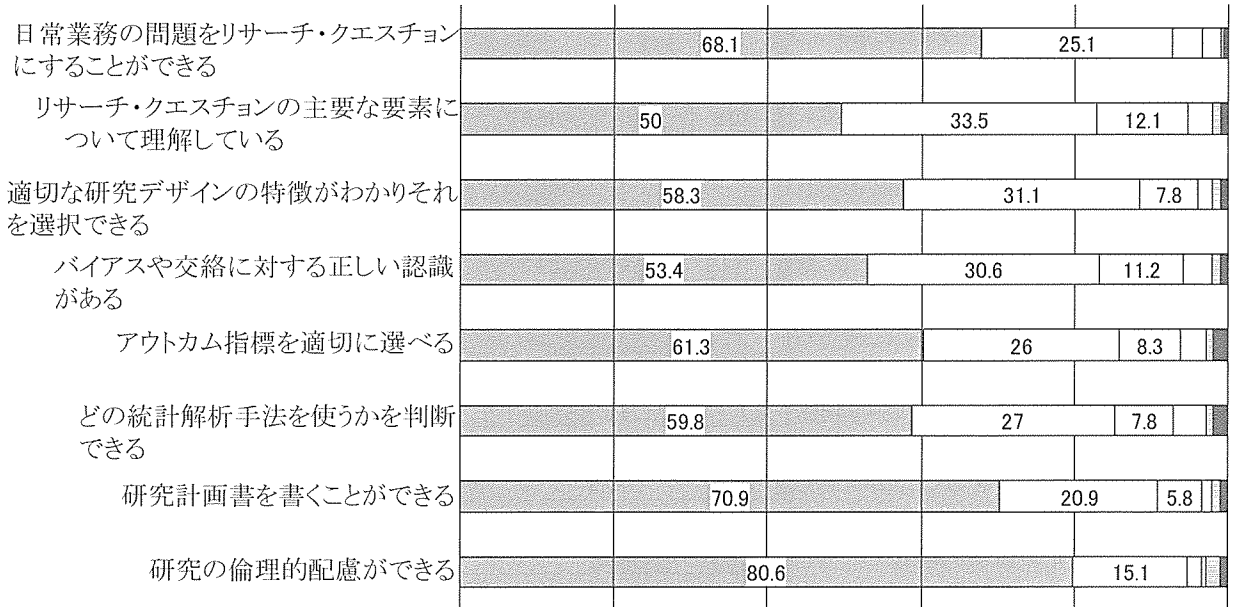


図4 臨床看護研究に関する知識・スキルの重要性の認識

n=208

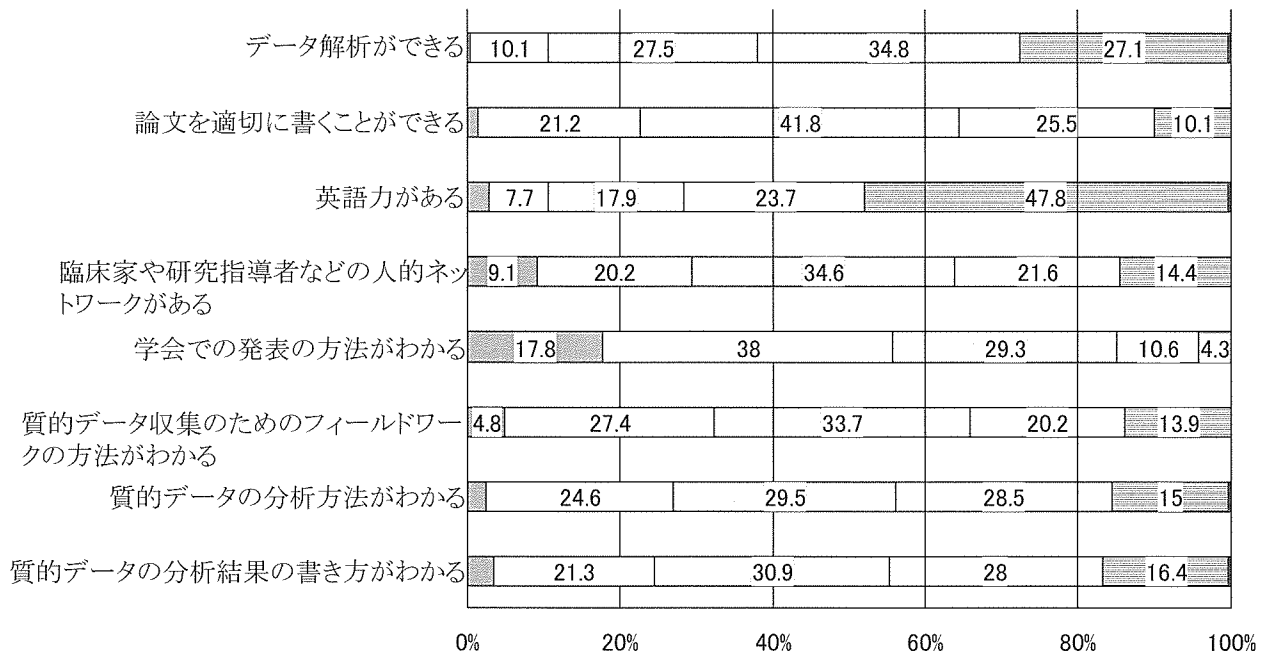
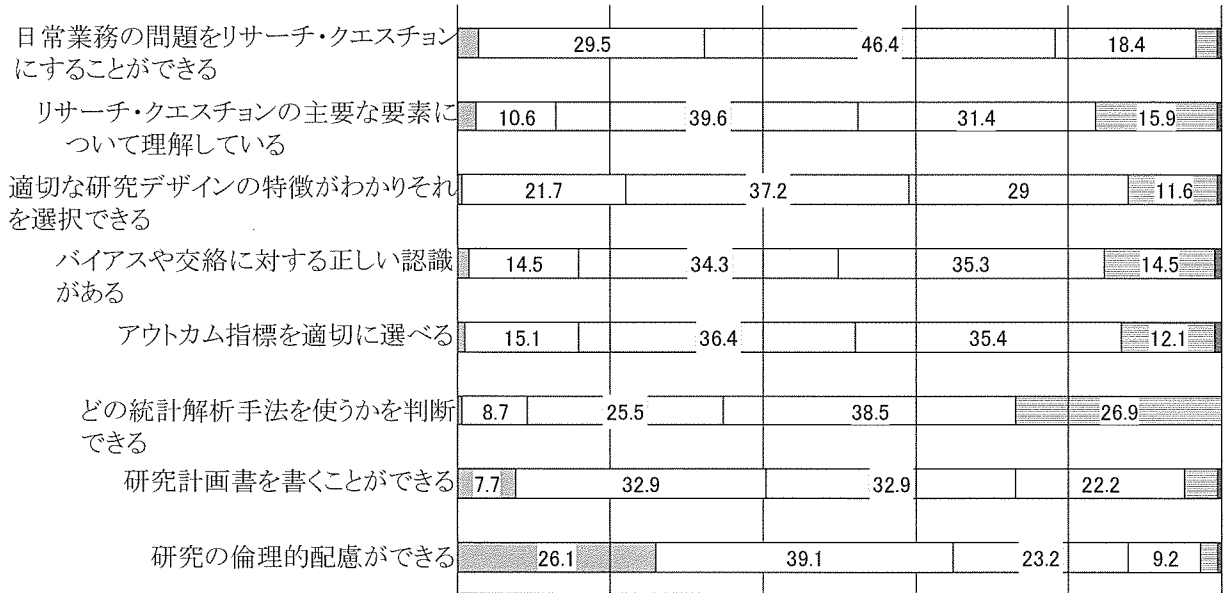


0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ 大変重要 □ まあ重要 □ 普通 □ あまり重要でない □ 全く重要でない ■ 無回答

図5 臨床看護研究に関する知識・スキルの達成度の自己評価

n=208



■ 十分に達成 □ まあ達成 □ 普通 □ あまり達成していない □ 全く達成していない ■ 無回答

表1 対象者の背景

		認定看護師 N=88	専門看護師 N=77	教育担当者 N=43	全体 N=208
性：女性	人 (%)	84(95.5)	76(100.0)	40(97.6)	200(97.5)
年代：20代	人 (%)	6(6.8)	0(0)	0(0)	6(2.9)
30代	人 (%)	52(59.1)	38(50.0)	5(11.9)	95(46.1)
40代	人 (%)	28(31.8)	32(42.1)	20(47.6)	80(38.8)
50代	人 (%)	2(2.3)	5(6.6)	17(40.5)	24(11.7)
60代	人 (%)	0(0)	1(1.3)	0(0)	1(0.5)
学歴：専門学校	人 (%)	62(70.5)	0(0)	35(83.3)	97(46.9)
：短期大学	人 (%)	10(11.4)	0(0)	0(0)	10(4.8)
：大学	人 (%)	13(14.8)	0(0)	3(7.1)	16(7.7)
：大学院	人 (%)	2(2.3)	77(100.0)	4(9.5)	83(40.1)
看護実務年数	平均 (SD)	15.0(6.1)	14.8(5.9)	23.7(8.2)	16.7(7.3)
所属機関主体					
国	人 (%)	4(4.6)	8(11.0)	4(9.5)	16(7.9)
都道府県	人 (%)	15(17.2)	13(17.8)	8(19.1)	36(17.8)
市町村	人 (%)	15(17.2)	4(5.5)	13(31.0)	32(15.8)
医療法人	人 (%)	18(20.7)	15(20.6)	4(9.5)	37(18.3)
他	人 (%)	35(39.8)	33(42.9)	13(30.2)	81(38.9)
所属機関 Ns 数					
20人未満	人 (%)	27(30.7)	26(33.8)	5(11.6)	58(27.9)
20～200人	人 (%)	10(11.4)	5(6.5)	5(11.6)	20(9.6)
200～400人	人 (%)	31(35.2)	14(18.2)	17(39.5)	62(29.8)
400人以上	人 (%)	20(22.7)	32(41.6)	16(37.2)	68(32.7)
主な業務*					
師長等	人 (%)	7(8.0)	20(26.0)	18(41.9)	45(21.6)
教育担当	人 (%)	14(15.9)	17(22.1)	22(51.2)	53(25.5)
主任	人 (%)	27(30.7)	20(26.0)	4(9.3)	51(24.5)
スタッフ	人 (%)	40(45.5)	13(16.9)	2(4.7)	55(26.4)

\*複数回答

表2 臨床看護研究の取り組み状況

		認定看護師 N=88	専門看護師 N=77	教育担当者 N=43	全体 N=208
研究の経験あり	人 (%)	77(87.5)	63(81.8)	38(90.7)	179(86.1)
現在、研究実施中	人 (%)	29(35.8)	43(55.8)	10(23.8)	82(41.0)
研究の実施体制：					
業務の一般	人 (%)	30(34.1)	27(35.1)	7(16.3)	64(30.8)
大学等との共同研究	人 (%)	3(3.4)	14(18.2)	1(2.3)	18(8.7)
施設外プロジェクト	人 (%)	1(1.1)	16(20.8)	1(2.3)	18(8.7)
業務上研究を行う必要性がある	人 (%)	74(90.2)	67(93.1)	33(84.6)	174(90.2)
今後、研究を行いたい	人 (%)	77(95.1)	72(96.0)	34(87.2)	183(93.9)

表3 臨床看護研究指導の取り組み状況

		認定看護師 N=88	専門看護師 N=77	教育担当者 N=43	全体 N=208
研究指導の経験あり	人 (%)	59(67.8)	72(93.5)	40(93.0)	171(82.6)
現在、研究指導中	人 (%)	24(27.9)	45(59.2)	29(67.4)	98(47.8)
研究指導のかかわり：					
研究に関する講義	人 (%)	1(1.1)	18(23.4)	8(18.6)	27(13.0)
研究推進企画運営	人 (%)	8(9.1)	24(31.2)	22(51.2)	54(26.0)
個別研究指導	人 (%)	38(43.2)	57(74.0)	19(44.2)	114(54.8)
他	人 (%)	2(2.3)	4(5.2)	3(7.0)	9(4.3)



表4 臨床看護研究指導上「困っていること」の内容

---

【全ての対象者に共通するカテゴリー】

---

1. 自分の看護研究に関する知識・能力の不足
  2. 看護研究に取り組むためのスタッフのコンディションや環境に関する困難
    - 1) 時間の確保が困難
    - 2) スタッフの研究意欲が高められない
    - 3) 指導体制の不備（スーパーバイザー不在、人間関係の悪さ）
- 

【大学院修了の看護師（専門看護師）に特徴的なカテゴリー】

---

1. うまく指導できない・スタッフとの間の知識の差  
自分が経験したタイプ以外の研究手法は指導できない
  2. 統計解析・統計分析方法                      ・質的研究    ・事例研究
- 

\*自由記載あり 119 人（57.2%）の記述の質的分析である。

表5 臨床看護研究の教育セミナーに関するニーズ

		認定看護師 N=88	専門看護師 N=77	教育担当者 N=43	全体 N=208
セミナー参加経験あり	人 (%)	47(54.0)	32(41.6)	32(74.4)	111(53.6)
セミナー主催者：					
大学	人 (%)	8(9.1)	15(19.5)	6(14.0)	29(13.9)
研究会・学会	人 (%)	17(19.3)	14(18.2)	17(39.5)	48(23.1)
職員団体	人 (%)	26(29.6)	7(9.1)	19(44.2)	52(25.0)
セミナー参加の希望：					
参加したい	人 (%)	55(64.0)	31(40.8)	20(46.5)	106(51.7)
まあ参加したい	人 (%)	29(33.7)	34(44.7)	19(44.2)	82(40.0)
あまり参加したくない	人 (%)	2(2.3)	9(11.8)	4(9.3)	15(7.3)
参加したくない	人 (%)	0(0)	2(2.6)	0(0)	2(1.0)

表6 臨床看護研究セミナーに関する希望

---

【主に専門学校・短期大学・学部卒業の看護師（認定看護師・教育担当者）  
にみられたカテゴリー】

- 
- 看護研究の基本的手順
- ・文献の活用（検索方法・入手方法）
  - ・研究テーマの設定・研究デザインの選択・研究計画書の作成
  - ・データ収集方法   ・データ分析
  - ・研究のまとめ方
- 

【主に大学院修了の看護師（専門看護師）にみられたカテゴリー】

- 
- 看護研究の specialize された技法
- ・統計処理   ・グラフ作成の方法
  - ・質的研究   ・事例研究
  - ・看護研究の指導方法
  - ・クリティーク
- 

\*自由記載あり 144 人（69.2%）の記述の質的分析である。

### Ⅲ. 多目的 Website 構築および教材作成

多目的 Website 構築および教材作成に関する報告書

主任研究者 福原 俊一 京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野 教授  
website 制作協力 平林 慶史 (有)ノトコード 代表取締役

研究要旨

本研究事業の広報、情報公開の場、遠隔学習のためのコンテンツ提供の場、リサーチラウンドやグループワークを通じた研究教育の場として、また教育セミナーの広報、登録、事前・事後対応のツール、各モデルユニットの研究事業マネジメント、コミュニケーションツールとして多目的 Website を構築した。また E learning 用のコンテンツおよび教材作成を行った。また、website が活用できない環境におかれた医療関係者や、セミナーなどの教材として活用するために、紙媒体で、臨床研究の基礎的事項に関する小冊子を作成した。

A. 研究目的

下記のような目的で、多目的 Website の構築、コンテンツおよび教材作成を行った。

- (ア) 本研究事業の広報、情報公開の場として
- (イ) 教育セミナーの広報、登録、事前・事後対応のツールとして
- (ウ) 各モデルユニットの研究事業マネジメント、コミュニケーションツールとして
- (エ) 遠隔学習のためのコンテンツ提供の場として
- (オ) リサーチラウンドやグループワークを通じた研究教育の場として

また、website が活用できない環境におかれた医療関係者や、セミナーなどの教材として活用するために、e learning のコンテンツとは別に、紙媒体で、臨床研究の基礎的事項に関する小冊子を作成した。

B. 研究方法・研究結果

1 研究班 多目的 WEB サイトの構築

1.1 サイトデザイン及び全体の構築

上記機能を持ち、研究班の活動を内外に広報することを目的としたWEBサイト全体のデザイン及びシステム構築を行った。このサイトシステムは、情報提供と会員制コミュニティサイトの両方の役割を持つ点の特徴である。

1.2 「臨床研究イントロダクション」のコンテンツ提供のしくみ構築

臨床研究に関して、社会的意義、我が国の歴史と現状、国際比較、方法論などに渡って網羅的な情報を提供するコンテンツを提供する仕組みを構築した

1.3 医師向け基礎セミナーの事前資料配布等

2006年9月に開催された、医師向けの基礎セミナーに関して、参加者への情報提供および事前資料配布のための会員制サイトを構築し

た。

#### 1.4 イベント管理システムの構築

研究班が行うセミナー等のイベントに、全国の臨床研究者が参加登録し、登録者に同報メール等を送ることができるシステムを構築した。

#### 1.5 研究班内の各分担研究者グループ、各モデルユニット毎の掲示板システムの構築

複数の大学・組織の研究者が参加する、複数のグループで研究を行うため、研究班内の情報交換・情報共有にWEB掲示板システムを使う必要があり、そのシステムを構築した。

このような、遠隔で複数のメンバーが協働して研究を行うための仕組みは、本研究班内で有用なだけでなく、臨床研究の普及・発展とともにそのニーズが高まることも予想され、コミュニケーションツールの開発・運用方法の検討もそのミッションであると考えられる。

#### 1.6 サーチエンジンへの対応

##### ・サイトのポータルサイトへの登録

当サイトを、臨床研究に興味を持った臨床家や研究者のポータル的なサイトとしていくために、主なポータルサイトや、関連している登録サイト等に、当サイトの登録申請を行った。

##### ・関連用語の強調

「臨床研究」や「アウトカム研究」など、トップページにコラムを設けるなど検索エンジンに最適化されたコンテンツの編集を行った。

## 2. 臨床研究教育のための教材・手法開発

### 2.1 モデル病院におけるリサーチラウンドのためのblogシステムの作成と活用

天理グループが行う、病院と大学の連携による臨床研究者教育(リサーチラウンド)の事前学習やアーカイブ共有のためのblogシステム

を、研究班WEBサイト内に構築した。

### 2.2 臨床研究に関する講義やセミナーのE-Learning化

新規にこの事業のために作成した教材およびセミナーなどで使用したプレゼンテーションのスライドと、講義・セミナー時の音声を編集・加工し、スライドを見ながら講義を聴いて学習できるE-Learningコンテンツを開発した。

30分間の講義のコンテンツを作成した。

・ 臨床研究:論文のイントロダクションの読み方

・ 臨床研究の基礎:文献検索の方法

・ 臨床研究の基礎:収集した文献の整理法

さらに

・ 医学英語 学会発表用の構造化抄録、パワーポイントの作成法、論文発表方法、研究報告など全14章を作成しアップロードした

現在

・文献検索エンジンであるpubmedの使用法を作成中である

また、これらのコンテンツをサイト登録者が閲覧できる仕組みをWEBサイト内に組み込み、ブラウザから簡単に受講できるように整備した。

臨床研究の基礎的事項に関する種々の講義録を小冊子として作成・印刷した。

#### C. 考察

ニーズアセスメントの結果に基づいて、医師、薬剤師、看護師に共通して要望の高かった基礎セミナー、

#### D. 結論

本研究事業の広報、情報公開の場、遠隔学

習のためのコンテンツ提供の場、リサーチラウンドやグループワークを通じた研究教育の場として、教育セミナーの広報、登録、事前・事後対応のツール、各モデルユニットの研究事業マネジメント、コミュニケーションツールとして多目的 Website の構築し、コンテンツおよび教材作成を行った。

E. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

F. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

## IV. 研究協力報告書



臨床医を対象としたニーズアセスメント・アンケートの集計結果に関する分析

研究協力者 平林 慶史 (有)ノトコード 代表取締役  
主任研究者 福原 俊一 京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野 教授

研究要旨

当研究班が主催した「若手医師のための臨床研究基礎セミナー」において、その参加医師（その多くが臨床経験 20 年未満）に臨床研究の学習に関するニーズアセスメント質問紙調査を行った。その結果臨床現場で研究を志す若手医師は、学習機会に対するニーズが高かった。特に臨床研究に関する教育資源として、①薬剤以外の介入研究や観察研究に焦点を当てた、② 臨床上の疑問の構造化に関わるもの、および③統計手法のスキルに関するもの、の提供を必要としていることが、本調査結果から示唆された。

A. 調査の概要

当研究班が主催した「若手医師のための臨床研究基礎セミナー」において、その参加者に「参加前の状態」についての質問紙調査を行った。有効回答数は 56 であり、回答者全員が医師（その多くが臨床経験 20 年に満たない若手）である。

B. 回答者（参加者）の背景

B-1 の結果から読み取れるように、回答者（参加者）の多くは臨床研究の研究会などに参加した経験がなく、問題意識は持っているものの、これまで積極的に勉強会やセミナー等に参加してきたわけではないことがわかる。

殆どの回答者が診療を主な仕事としているためか、このようなセミナーの開催を希望するのは、休日に、同地域内で、1日程度のプログラムが提供されることを望む者が最も多い。(B-8,9,10)

C. 考察

1. 回答者が希望する研究の志向性

臨床研究には「計画立案者」として関わりたいと希望する者が最も多く、その研究内容としては「薬剤以外の介入研究」や「横断・縦断的な観察研究」を志向する者が多い傾向が見られた。臨床研究を志す医師には、「薬剤」よりは「薬剤以外」の変数について研究する希望があることが示唆される。

2. 研究能力について

C-1~3 をみると、臨床研究に関心を持っている母集団であっても、PubMed を用いた文献検索こそ半分を超えるものの、臨床研究の批判的吟味や、臨床実践への EBM の活用などにあまり自信を持っている者が多くないことが読み取れる。

また、臨床研究に必要とされるスキル・能力についての考え方では、比較的「倫理」に関する必要性・重要性の認識が低いことがうかがえた。

教育セミナーのテーマとしては、リサー

チクエスチョンなど研究の構造部分に関わるものを希望する者と、統計手法などのスキルを高めたいと希望する者が多かった。

#### D. 結論

臨床現場で研究を志す若手医師は、臨床研究に関する教育資源として、①薬剤以外の介入研究や観察研究に焦点を当てた、② 臨床上の疑問の構造化に関わるもの、および③統計手法のスキルに関するもの、の提供を必要としていることが、本調査結果から示唆される。

#### E. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

なし

#### F. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

## 臨床研究デザインの基礎

### 目的・学習目標

- ・臨床研究デザインに関する最も基本的な理論、知識、スキルを習得する
- ・研究プロトコルの骨格(倫理的配慮含む)を知る
- ・疫学・統計家等の専門家に、いつ、何を相談すれば良いかがわかる
- ・臨床研究のマネジメントに必要なインフラ機能を知る

### ■日時・会場

平成18年9月16日(土)、17日(日) 2日間 9:00~17:00

京都大学 医学部構内 (申込締切: 平成18年7月31日)

■対象: 若手臨床家(大学外で診療に従事されている方も歓迎いたします)

■定員: 50名(応募多数の場合にのみ書類選考あり)

■受講料: 無料(旅費・宿泊費は自己負担)

■共催: 厚生労働省 厚生科学研究 臨床研究基盤整備推進研究事業  
「臨床研究フェロシップ構築に関する研究」班 主任研究者(福原 俊一)  
京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野

■後援: 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 臨床研究者養成(MCR)コース

### ■講師:

福原 俊一 (京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 教授)(コース・ディレクター)

川村 孝 (京都大学大学院医学研究科医予防医療学分野 教授)

中山 健夫 (京都大学大学院医学研究科医健康情報学分野 教授)

東 尚弘 (京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 特任助手)

林野 泰明 (京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 特任助手)

### ■講義内容:

【9月16日】セッション1/リサーチ・クエスチョンをたてる、プロトコルの構造

セッション2/概念を変数に変換する、変数の信頼性・妥当性

セッション3/臨床研究デザインとバイアス

セッション4/臨床研究における倫理的配慮

セッション5/1日目のまとめと質疑応答

【9月17日】セッション6/統計解析の基礎Ⅰ: 記述統計・検定・推定

セッション7/統計解析の基礎Ⅱ: 統計解析の選択

セッション8/臨床研究の実例に見る陥りがちな問題点

セッション9/統計解析の基礎Ⅲ: 実践編

セッション10/2日間のまとめと授業評価フィードバック

### ■お申し込み方法:

ホームページ (URL: <http://epikyoto.umin.ac.jp/fs/>) よりお申込書をダウンロードしていただき、E-mail、FAXまたは郵送でお申し込みください。

お問合せ先: 「臨床研究フェロシップ構築に関する研究」班 事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田新衛町 京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野

E-mail: [nagai@pbh.med.kyoto-u.ac.jp](mailto:nagai@pbh.med.kyoto-u.ac.jp), FAX: 075-753-4644

平成18年度 厚生労働省 厚生科学研究 臨床研究基盤整備推進研究事業  
若手臨床研究者養成のための基礎集中セミナー：  
「臨床研究デザインの基礎」

目的・学習目標：

- ・臨床研究デザインに関する最も基本的な理論、知識、スキルを習得する
- ・研究プロトコルの骨格(倫理的配慮含む)を知る
- ・疫学・統計家等の専門家に、いつ、何を相談すれば良いかがわかる
- ・臨床研究マネージメントに必要なインフラ機能を知る

日時：

平成18年9月16日(土)、17日(日) 9:00～17:00

会場：

京都大学内

受講料：

無料(旅費・宿泊費は自己負担)

定員・受講者像：

50名程度

若手臨床家(大学外で診療に従事されている方も歓迎いたします)

7月より受講者を公募し、応募多数の場合にのみ書類選考を行なう(7月末締め切り)

開催形式：

共催：厚生科学研究 臨床研究基盤整備推進研究事業

「臨床研究フェロースhip構築に関する研究」班 主任研究者(福原 俊一)

京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野